

る。然るに、生産性の低いわが国の労働が合理化によって失業の出やすいこともまた明らかである。

然し、かかる合理化による失業者の数は、一時に左程大量になるものとは思われない。むしろ大量の失業は生産品が市場において採算不利になり、売行きが停滞した場合に発生しやすいのである。然るに、かかる失業もみな「合理化」のためであると言ひ触らされている。真の合理化による失業は経営者としてやむを得ない措置であつて、当然配置転換その他の方法でその数の減少に努力すべきであるが、決してこれを回避するために合理化を遅らせるべきでない。回避は却つて大量の失業者を将来に繰越すことである。

また、不況による失業、または産業の構造的変化に伴う失業に対しては、社会保障などによる救済が当然であるから、政府がその責任を負うべきである。

要するに、現下の情勢においては失業の発生は避け得られないが、失業者の再吸収に対する責任については産業界自身が最も敏感であるべきであつて、産業界が主導的にその対策の確立につき政府を鞭撻すべきである。

経済の復興は、日本の独立と民生安定の礎石である。而して、経営者は復興の最高の担い手である。われわれの責務はまことに重、かつ、大であると言わねばならない。われわれは非常の決断と勇氣をもつて、進んでこの任務を全うすべきであると信ずる。

政治の浄化に対する要望

(二九・五・一九)

第10回関西経済同友会大会決議 於神戸

われわれは日本の政治、経済の自立達成を最高の義務として関心をもち、経済諸政策をその目標に対して統一的に総合的にかつ強力に推進するための前提として、安定政権の確立を要望してきた。

しかるに不幸にして政治の腐敗と政治勢力の混迷とが議会、政党に対する不信を齎らすに至つたことは遺憾にたえない。

議会、政党の権威失墜は、専制的な全体主義政治に向はしめ、民主主義議会政治を手放すことを意味するが故に、政治運営の誤りに対して深き反省の上にたつて、現在の議会政治の欠陥を是正しこれが健全化を計る以外に民主政治を確保する途はないと信ずる。経済と政治との密接な関係を考える時、政治の頹敗はもとより政治家の責任にあるが、経済人もまた負うべき責の少なからざることをわれわれも深く反省せざるを得ない。政治の公正なる運営によつて安定政権の確立をはかる正しい態度こそ国民の支持に値し、この国民の協力が経済の健全な発展の基礎を形成するものと確信する。

今後誤りを繰返さざるため、この際政治家が勇氣と良識を以て、政治資金規正法、選挙法、国会法などの改正また地方議会制度の簡素化その他、政界の浄化肅正に役立つあらゆる方法を採用し、議会政治、政党政治の不動の基盤を育成されんことを強く要望する。